

(12) 木材の活用による環境保全について

想定課題

国会等移転に伴う都市づくりにおいては、地球環境にやさしい資源である木材を積極的に活用すべきではないか。

対応方向

木材は、調湿機能、衝撃の吸収、断熱性、吸音性などに優れ、さらに、ぬくもりや色調がやさしいなどの特性を持っており、木材を利用することにより、子供にも高齢者にも快適で健康的な空間を提供することができます。

また、他の資材と比べて製造に必要なエネルギーが少ないエコマテリアルで、しかも再生産が可能な資源であると同時に、森林として成長する際に二酸化炭素を吸収し、木材として建築物等に使用されてからも炭素を長期間蓄えるなど、地球温暖化防止に大きく寄与しています。

しかし、森林の二酸化炭素吸収能力は、成長の旺盛な若い時期ほど高く、成熟するにしたがって低下してくることから、成熟した森林は順次木材として有効に利用し、その後に、また若い森林を育てていくというように、森林の整備と木材の利用を循環させていく必要があります。

国会等の移転に伴う新都市の整備に際し、木材を積極的に利用することは、周辺の森林資源の有効活用や森林の適正な整備を通じ、地球的規模の環境の保全につながり、さらには、県土の保全、水資源のかん養、保健休養の場の提供など、森林の公益的機能の持続的発揮と、森林・水源地などを守っている山村地域の維持・活性化に大きく貢献することになります。

これらのことから、国会等の移転に伴う新しい都市を、環境と共生した潤いのある都市とするためには、住宅をはじめ、公共建築物、公園施設、土木施設等の幅広い分野において、木材の特性を生かしながら積極的に利用していくことが有効であると思われます。

エコマテリアル

エコロジーを念頭においた材料、すなわち、作り出すとき、使っているとき、また、使い終わったときも、資源の保護・再利用、地球環境保全、省エネルギーなどを考慮した材料のこと。